

気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol: 154

令和5年5月24日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!



四季成りいちごの生産体制確立に向けて（腋芽の整理作業の様子）

気仙沼・南三陸農業をさらに前へ

所長 荒井雅秀

令和五年度がスタートいたしました。コロナ禍の三年間に様々な制限があった分、今後のアフターコロナにおける地域経済活動の正常化・活性化が期待されているところですが、

しかしながら他方では、ロシアのウクライナ侵略を背景とした国際的な原材料価格の上昇に加え、円安の影響等から、物価高が続いております。直近の農業関係の数値を見ましても、令和二年を100として、農産物価格指数が107.1であるのに対し、農業生産資材価格指数は122.1、特に肥料は155.2であり、飼料も148.5と、類のない高騰の状況が生じております。

このように経済を取り巻く環境に厳しさが増している中では、国や自治体の経済対策等を活用して農業所得を確保すること、更には、デジタル技術を掛け合わせるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進のほか、地域計画に基づく担い手への農地の集積・集約化、地域資源の活用推進等によって、農業経営の体質強化を図ることが重要と捉えております。

そこで、当普及センターでは、今年度、新たに二つのプロジェクトを立ち上げ、地域農業の将来像の検討と合意形成、高収益作物の導入、ドローン等を活用した水稲省力化技術の普及を図るほか、四季成りいちごの栽培技術の向上及び経営の安定化に向けた支援を重点的に行ってまいります。

今後も引き続き、「魅力ある気仙沼・南三陸農業の再興」と「次代の農業を担う担い手の育成支援」、「海・山・里の恵みを活かした活力ある地域農業の展開」を重点活動項目に掲げ、関係機関・団体との密接な連携を図りながら、当地方の農業の発展に向け、職員一丸となって農業者の皆様のお取組を支援してまいりますので、よろしくお願いたします。

今年度の普及活動紹介

1

担い手を核とした地域農業の継続・発展

【対象】表山田・三段田地区の中心経営体2経営体及び主要農家8人



農地利用の打ち合わせ

①地域農業の将来の在り方の合意形成

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、令和3年2月に人・農地プランを作成し、法人1社と個人1名が中心経営体として水稻中心の農業を行っています。今後、農地利用の姿をより明確化する地域計画の策定に向けて、課題の再整理と合意形成が必要となっています。当地区はほ場整備事業の要望があり、担い手や主要農家による推進委員会が設立されていることから、これを核に地域農業の在り方の検討を支援していきます。

②高収益作物の検討支援

農地の集積に向け、新しい技術の導入と機械化による効率化・省力化を進めるとともに、地域農業の収益向上に向けて、高収益作物の生産に取り組むこととしています。今年度は、えだまめ、さつまいも、そらまめ等の試験栽培を予定しており、生育調査や栽培指導を通してその取組を支援していきます。

③水稻省力化技術支援

中心的な担い手である法人が、水稻の省力化や作期分散を目指して、水稻乾田直は技術やスマート農業を推進しており、令和5年は試験的に50aの面積で取り組みます。技術修得により規模拡大が可能となり、農地集積の促進や未利用農地の解消が期待されることから、定期的に栽培管理指導等を行っています。



えだまめのは種作業

2

市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展

【対象】株式会社南三陸Pine Pro (パインプロ)

①クロマツ省力栽培と出荷調製作業の軽労化の検討

クロマツ栽培は手作業が多く、さらに、人員が多数必要なため、手作業に代わる機械や作業を補助する器具を用い、省力化や軽労化を検討していきます。

今年度は、電動播種機の導入、除草作業を省力化するための除草剤適用拡大に向け、メーカーと連携するとともに、収穫調製作業の効率化や軽労化のための運搬・調製方法について専門家から助言を受けながら改善を進めていきます。

②小ギクの地域適応性と商品性の把握

宮城県農業・園芸総合研究所の現地試験「赤色LEDを活用したきく類の露地電照栽培」に南三陸Pine Proの代表取締役 後藤氏が協力し、南三陸地域に適した品種を選定しました。

後藤氏は、選定した品種を令和5年度のきく栽培に取り入れる予定で、現地試験のデータを活用しながら、ねらいどおり開花させ収穫できるかを調査するとともに、花の市場評価について把握していきます。

③経営統合に向けた調整と従業員雇用の支援

南三陸Pine Proはクロマツを栽培していますが、後藤氏は個人経営できく栽培も行っています。

それぞれの栽培で忙しい時期にパート雇用を行っていますが、年間を通した従業員雇用はありません。

また、10年後を見据え、円滑な事業承継につなげるために、2つの経営を統合し、クロマツときくの栽培を行うことで、後進に引き継ぐ環境を整える必要があることから、普及センターでは雇用確保と経営統合を早期に行えるように支援していきます。



クロマツの収穫調製作業



赤色LED露地電照試験

今年度の普及活動紹介

3 四季成りいちごの生産体制確立による収量確保

【対象】有限会社水山養殖場

有限会社水山養殖場は、一季成りいちごと四季成りいちごを組み合わせた生産に取り組む予定ですが、いちごの周年供給は県内でも事例が少なく、栽培を担当する社員も四季成りいちごの栽培は未経験です。このため、四季成りいちごの生産体制確立に向けた技術支援及び経営支援を実施します。

①栽培技術修得支援

四季成りいちごは夏季に収穫するため、アザミウマ等の害虫や高温による果実への被害対策が課題です。そこで、病害虫防除、高温対策の技術修得を支援し、秀品率向上を目指します。また、収量を確保するため、いちごの生育に合わせた肥培管理や温度管理ができるよう支援します。

②経営安定化支援

いちご部門の経営安定化を目指し、毎月定例会を開き、生産体制整備に向けた支援を行います。



定例会の様子



四季成りいちご「すずあかね」

トピックス

女性農業者研修会を開催しました

農業と地域の活性化における女性の役割は重要性を増していることから、気仙沼地域内外で活躍している女性起業者の取組を学ぶとともに、女性農業者のネットワークづくりを目的とした研修会を令和5年2月27日に開催しました。



活発な意見交換

研修会では、震災後、着物のアップサイクルによる伝統文化の伝承と発信に取り組む亘理町の引地恵さんから「女性の起業、子育てとの両立と地域振興」をテーマに御講演いただきました。また、事例紹介として、合同会社でんむしカンパニー（南三陸町）の中村未来さんから「藍の生産、藍染めと農家民泊の取組」を御紹介いただきました。参加した女性農業者間の交流を図ることができ、有意義な研修となりました。

水稲乾田直は実演会を開催しました

水稲乾田直は栽培の普及に向け、(株)五十嵐商会と共催で令和5年3月15日に気仙沼市本吉町で実演会を開催し、生産者27名が参加しました。スガノ農機(株)、(株)五十嵐商会を講師に迎え作業機の説明を受けるとともに、プラウマイスターによる作業を見学しました。50aのほ場で実演したグレーンドリルによるは種とケンブリッジローラーによる鎮圧は、いずれも30分以内で完了し、参加者から作業性の良さに驚きの声が上がりました。実演機以外にも、レーザーレベラー等、関連機械の展示もあり、作業体系の理解が深まりました。また、4月11日には、出芽前の除草剤処理も行い、効果を確認しました。

管内では初の取組であるため、今後は研修会を随時、開催していきますので、御興味のある方はぜひ御参加ください。



鎮圧作業の様子

枝もの用クロマツの出荷調製作業の省力化を検討

クロマツの出荷調製作業を省力化するため、農機具メーカーの(株)サンエーに協力を依頼し、クロマツの松葉を除去するための機械を試作してもらいました。令和5年3月28日に現地で試作機のテストを行い、また、実際に作業に従事する従業員にも使い勝手などを体験してもらいました。

その結果、テストしたクロマツは乾燥していたため、松葉の除去が難しく、樹皮が削れるなどの問題点が見つかりました。また、従業員から、「松葉除去のドラムがむき出しなので、作業が怖い」といった意見が出されました。

このほかにも作業性等様々な意見が出されたことから、メーカーへ伝達し試作機の改良を図りながら製品化につなげていきます。



試作機の実演

トピックス

気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会 研修会が開催されました

令和5年3月8日、仙台市若林区で一年を通していちごなどの果物狩りを体験できる「JRフルーツパーク仙台あらはま」を視察するとともに、宮城県農業・園芸総合研究所主催の「水田活用による露地野菜生産振興のための排水対策実証研修会」に参加しました。

JRフルーツパーク仙台あらはまでは、ぶどう、なし、りんご、施設いちご等について栽培概要や管理方法、土づくりや施肥方法等、実践的な話を中心に分かりやすく説明していただきました。また、排水対策実証研修会は、排水対策の重要性や基本技術の他、様々な作業機等について、写真や動画を使い紹介されていました。どちらも、参加したクラブ員がすぐに実践できる内容が含まれ、農業経営に役立つ研修会となりました。



聞き入るクラブ員

気仙沼金のいぶきブランド化 推進協議会が設立されました

「金のいぶき」は玄米食専用の水稲品種で、胚芽がひとめぼれの3倍と大きいことから、GABAなどを豊富に含み、栄養価が高く、食味や食感が良いといった特長があります。また、健康志向の消費者への需要も高く、高単価での取引が期待できます。管内では、令和3年に普及センターの栽培展示ほ（20a）設置により、作付面積が順調に拡大し、令和5年は、生産者が新たに5者加わり、面積は3.8haまで拡大しました。

そこで、金のいぶきをフラッグシップとして気仙沼市の水稲生産を振興するため、気仙沼市の金のいぶき生産者6者、卸小売業者等がメンバーとなり、令和5年4月21日に「金のいぶき」のブランド化を推進する協議会が設立されました。管内での栽培を20haまで拡大する目標を掲げ、今後は、ホタテ殻など海産物由来資材を活用した土づくりなど海の街気仙沼を活かした栽培に取り組むとともに、独自のパッケージを作成するなどブランド化を進めていきます。秋に「気仙沼金のいぶき」を見かけた際には、ぜひ御賞味ください。

新規就農者紹介



藤村 駿斗 さん

藤村駿斗さんは、令和4年に気仙沼市八瀬地区で新規就農し、生食用ぶどうの栽培に取り組んでいます。藤村さんは、過去に山形県や福島県の農園でぶどうをはじめとする果樹の栽培や販売に携わりました。この経験を活かし、地元である気仙沼市でシャインマスカット等の大粒ぶどうの栽培を開始しました。さらに、観光農園での勤務経験や販売のノウハウを活かして、将来的にはぶどうの直売や観光農園化を目指しています。今年で定植2年目となり、来年以降の収穫に向けて樹の育成や園地の整備に励んでいます。

藤村さん から一言

種なしで皮ごと食べられるシャインマスカットの普及以降、大粒ぶどうには様々な有力品種が登場しています。その多様な魅力を気仙沼市周辺の皆様に発信し、サンマやカツオのように気仙沼の秋を盛り上げる存在を目指していきたいと思っています。

● 肥料価格高騰対策事業の御案内 ●

国と宮城県では化学肥料低減に取り組む生産者を対象に、肥料価格の高騰分のうち8.5割を補助します。また、気仙沼市及び南三陸町では国及び県からの補助金に、上乗せして交付します。

対象となる肥料

- ・令和4年秋肥（令和4年6月から令和4年10月までに注文又は当用買いした肥料）
- ・令和5年春肥（令和4年11月から令和5年5月までに注文又は当用買いした肥料）

申請期間

令和5年6月19日(月)から6月30日(金)まで（土・日除く）

申請・問い合わせ先

区分	申請・問い合わせ先	電話番号
JAから肥料を購入している方	JA新みやぎ 南三陸統括営農センター (気仙沼・本吉・志津川の各営農センターでも申請を受け付けます。)	0226-47-4585
JA以外から肥料を購入している方	気仙沼市産業部農林課農政係 南三陸町農林水産課農林業振興係	0226-22-6600(内線541/542) 0226-46-1378

JAから肥料を購入し、かつJA以外からも肥料を購入している方は、どちらの窓口でも申請できます。

特別申請会

気仙沼市、南三陸町及びJAでは、申請に係る相談や必要な書類を受付する特別申請会を開催します。日時や会場については、各市町の広報（6月号）を御確認ください。

徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策